

国立大学法人京都大学監事監査規程新旧対照表

改正前	改正後
<p>(前 略)</p> <p>(<u>コンプライアンス部</u>との連携)</p> <p>第14条 監事は、<u>コンプライアンス部</u>と密接に連携を保ち、内部監査の結果を活用するよう努めなければならない。</p> <p>(他の役員等との会合)</p> <p>第15条 監事、<u>監査</u>を担当する<u>理事又は副学長</u>、理事及び会計監査人が<u>監査等</u>の結果を踏まえて、本学の運営及び業務の改善について協議するため、監事の下に四者協議会を置く。</p> <p>2 } (略)</p> <p>3 }</p> <p>第16条 総長、監事及び会計監査人は、<u>監査等</u>の結果を踏まえて、本学の運営及び業務の改善について、定期的に意見交換を行うものとする。</p> <p>(後 略)</p>	<p>(<u>監査室</u>との連携)</p> <p>第14条 監事は、<u>監査室</u>と密接に連携を保ち、内部監査の結果を活用するよう努めなければならない。</p> <p>(他の役員等との会合)</p> <p>第15条 監事、<u>内部監査</u>を担当する<u>副理事</u>、理事及び会計監査人が<u>監査の結果等</u>を踏まえて、本学の運営及び業務の改善について協議するため、監事の下に四者協議会を置く。</p> <p>2 } (同 左)</p> <p>3 }</p> <p>第16条 総長、監事及び会計監査人は、<u>監査の結果等</u>を踏まえて、本学の運営及び業務の改善について、定期的に意見交換を行うものとする。</p> <p>附 則 (令和7年達示第54号)</p> <p>この規程は、令和7年10月1日から施行する。</p>